

安全確保への 取り組み

目標

従業員の安全を確保し、
労働災害ゼロを達成する

課題

住友化学グループ全体における
安全行動の徹底と危険予知能力の向上



グループ全拠点における安全確保への取り組み

近年、住友化学グループで発生した労働災害の原因に着目すると、不安全行動に由来するものが大半を占めています。中でも、事業のグローバル展開に伴い、海外グループ会社、業務委託先における労働災害発生件数の下げ止まりが課題だと考えています。

住友化学グループでは、「安全をすべてに優先させる」との強い意志のもと、とりわけ人に焦点を当てた安全確保への取り組みを通じて、全拠点における労働災害ゼロの達成を目指しています。

安全基本行動の浸透

危険予知などの安全の基本行動を徹底することで、大半の労働災害は防止できるとの経験則から、グループ共通のグラウンドルールを定め、全グループ従業員へ周知し、労働災害の撲滅を図るとともに、グループ全体の安全活動のレベルアップを図っています。

住友化学グループグラウンドルール

1. 作業前に一呼吸置く。
2. 不安全行動に対して相互注意する。
3. 機器可動部には手を出さない。

労働災害防止のための安全教育

課題のイラストから読み取れる不安全行動に対し、現状把握、本質追究、対策樹立、目標設定の4ステップで改善策を整理・提案する4R-KYT(4ラウンド危険予知トレーニング)は、日本の製造現場で広く知られているトレーニングです。これをグローバル安全大会などで演習することで、国内外グループ全体への水平展開を図っています。



4R-KYT課題シートイメージ

情報共有

グローバルミーティングやグループ会社情報交換会などを定期開催し、安全活動や災害事例の報告のほか、RC(レスポンシブル・ケア)アワードの授賞式および受賞案件の紹介を行っています。

また、RCニュースレターを月に1回、4か国語(英語・中国語・韓国語・日本語)で、国内外のグループ会社に発信しています。最近では掲載記事に関する問い合わせも増えており、RCニュースレターを媒体として、グループ会社と双方向のコミュニケーションが活発になっています。

グループの安全を担う人材を育成する

情報電子化学部門グローバル安全大会の開催

2016年3月に、ICT関連部材を幅広く供給する情報電子化学部門の各製造拠点の安全意識の向上・維持を目的とした第3回「情報電子化学部門グローバル安全大会」が開催されました。本大会には、同部門の役員を含め約400人が参加し、以下のさまざまな催しが行われました。



4R-KYT演練大会の様子

安全活動報告では、各所のベストプラクティスを共有するとともに、報告準備および報告後のコミュニケーションを通じて、日頃の安全取り組みの整理・改善を図りました。

4R-KYT演練大会では、同部門の各地域からの代表5チームが危険予知能力やチームワークの良さを競いました。グローバル安全大会での4R-KYT演練は2013年度より開始され、危険予知能力をトレーニングする習慣がグループ全体へと浸透してきています。

安全職場表彰では、住化電子材料科技(無錫)有限公司チームが最優秀賞を獲得しました。同社は、新人への徹底した安全教育の実施により、無事故・無災害と高い生産性を両立したことが高く評価されました。

本安全大会を主催した東友ファインケム株式会社の黄仁雨社長は「安全への想い」について、力強く語ります。



情報電子化学部門(アジア地域) 拠点図

安全は企業の経営にとって大前提であり、安全・安定操業が確立できてはじめて、社会からの信頼を得られるとともに、顧客と長期的なパートナーシップを結ぶことができます。

事故や災害がひとたび発生してしまえば、企業の存続を揺るがすほど大きな影響が生じます。安全を確保・維持するために大事なことは、社員の意識改革と会社の仕組みづくりです。

私は、社員教育の場において、「社員一人ひとりには、ルールを守って安全に業務を遂行する義務があり、会社には、安全に働ける職場を提供する義務がある」と説明しています。

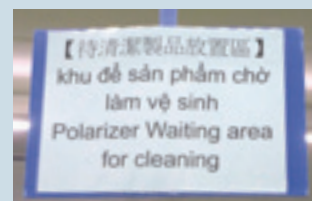
さらに「職場の一人ひとりを自分の家族と同じ」と考え、「自分の家族を災害に遭わせないように」という真剣さで安全対策に取り組むようにと全社員に伝えています。

執行役員
(東友ファインケム株式会社 社長)
黄仁雨



TOPIC 外国籍従業員の労働安全推進

台湾の住華科技(股)有限公司では、東南アジア地域からの外国籍従業員も雇用しており、言葉や生活習慣の違いを超えて安全に業務が行われるように、さまざまな工夫を凝らしています。例えば、ビデオやイラストなどを活用して作業の安全徹底を伝え、標識・掲示などは多言語表記としています。作業指示の際には、内容を「やってみせる」・「やらせてみる」ことで、作業者の理解不十分による災害を防いでいます。さらに実際に怪我をした社員が、再発防止のために母国語でビデオメッセージを作成し、同国籍の同僚へ災害原因を解説しています。



多言語の標識